

日本社会福祉学会第 61 回大会秋季大会の開催にあたって

日本社会福祉学会第 61 回秋季大会
北星学園大学学長 田村信一



このたび日本社会福祉学会第 61 回大会秋季大会が北星学園大学で開催されることとなりました。伝統ある学会の開催を本学が引き受けることができ光栄に存じます。多数の会員を迎えて充実した学術研究大会となるよう準備万端を期しているところです。

今年も日本列島は残暑が過ぎても異常な暑さが続いています。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。札幌も例年になく蒸し暑い日々が続いていますが、大会が開催される 9 月下旬には、秋の気配が濃くなっているでしょう。

大会開催にあたって企画したテーマは、「貧困と社会福祉—貧困問題への創造的実践を考える」です。周知のように貧困問題は、近年社会福祉政策の大きな焦点の一つとなっています。格差社会、ワーキングプア、派遣切りなどの言葉が人口に膾炙（かいしゃ）するとともに、生活保護利用者の増加や生活保護基準の在り方が大きな政治課題になっています。他方で貧困の拡大に対して、ホームレスの人への伴走型支援、生活保護利用者への自立生活支援など、NPO 等を中心とした新たな創造的実践が、全国各地で広がりつつあります。大会シンポジウムでは、各地における創造的実践に焦点を当てながら、今後の実践と社会福祉学における貧困研究の可能性について考えたいと思います。政権交代と同時に「アベノミクス」によって、ややもするとデフレ脱却と景気回復に過剰な期待がかけられていますが、「貧困問題」を等閑視することは文明国として許されるべきではありません。

北星学園大学は 1962 年に、文学部英文学科・社会福祉学科というささやかな一学部の大学として発足いたしました。社会福祉学科は、1992 年に社会福祉学専攻修士課程を開設し、1996 年、文学部社会福祉学科を、福祉計画学科・福祉臨床学科・福祉心理学科から構成される社会福祉学部として独立させました。さらに 2000 年には社会福祉学研究科博士課程を開設して現在に至っています。昨年本学は開学 50 周年を迎えましたが、社会福祉の研究と教育はキリスト教主義大学としての本学の学風を象徴する部門として広く認知され、とりわけ北海道内の隅々で「地の塩」として福祉のために活躍する多数の卒業生を送り出してきたことは、われわれの誇りとするところです。

本学は都心から至近距離にあり、千歳空港からのアクセスにも便利な場所にあります。多くの会員の皆様が参加され、北海道自然 100 選に選ばれた北限のコナラ林として学術上貴重な「大谷地の森」に隣接し、緑豊かな自然に恵まれた美しいキャンパスで、実り多い交流が実現されることを確信しています。さらに本学図書館には、稀覯な資料を含む「イギリス社会政策コレクション」が所蔵されておりますので、ぜひこの機会にご覧いただきたく存じます。